

# 大牟田市における武道指導充実のための取組について

大牟田市教育委員会  
学校教育課 指導室

福岡県の最南端に位置する大牟田市は、人口約12万人。西は有明海、東は阿蘇の外輪山へとつながる山々に囲まれた自然環境に恵まれた土地である。かつては、日本の近代化に大きく貢献した三池炭田を有し、「炭の都」として、石炭産業を中心に発展した街である。

昨年7月に、市内の三池炭鉱関連資産が「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」としてユネスコ世界文化遺産に登録され、学校教育の中においても、世界遺産学習等を通して郷土を愛し、誇りに思う心の育成に取り組んでいる。

また、本市は平成23年度末に市内全小・中・特別支援学校（当時34校）が一斉にユネスコスクールに加盟し、各学校がESD（持続可能な開発のための教育）を推進し、学校の特色を生かした教育活動を展開している。



明治日本の産業革命遺産の1つ 三池炭鉱宮原坑跡

## 1 はじめに

本市は、平成27年4月に市南部の3中学校（船津・右京・延命）を1校（現在の宅峰中）に再編し、9校の市立中学校に2598名（5月1日現在）の生徒が在籍している。

地域の武道に関する実態としては、市内に柔道、剣道、弓道、少林寺拳法、居合道等の各種武道の団体が生涯スポーツとして、地域の子ども達の健全育成に向けた活動を行っている。

また、市立中学校の武道指導については、道場等の環境が整って

いる学校では、武道必修化前から男子体育の授業で年間計画に位置付け、柔道や剣道、弓道の指導を行ってきた。

このような中、本市では平成23年度に中学校武道必修化（弓道）に向けた地域連携指導実践校事業（文部科学省）を、平成24年度に中学校武道必修化（柔道）に向けた指導実践校事業（福岡県教育委員会）を受け、研究を行っている。

そこで、今回は本市における弓道と柔道の実践を紹介する。

## 3 武道指導の実際（弓道）

### (1) 単元目標

- 弓を引く難しさ・楽しさを味わうとともに、安全に十分留意しながら取り組もうとしている。
- 自己の課題を意識しながら、巻藁練習や見取り稽古に取り組むことができる。

- 用具の扱い方や射法八節の基本的な動作・技能を身につけることができる。
- 弓道の歴史や礼法を理解することができる。

(2) 具体的な指導内容 ①～④は学

## 2 武道（弓道）の実践について

弓道については、平成11年度から選択体育として取り組んできた

延命中学校に、平成23年度に弓道場が設置され、隣接の右京中学校とともに、弓道に取り組むことになった。

しかし、中学校における弓道の学習指導は、全国的にもあまり例がなく、さらに体育担当教員の中にも、経験者がほとんどないという状況でスタートしなければならなかった。

そこで、本市では大牟田弓道連盟の皆様方にご支援をいただき、○学習指導要領に対応した武道

（弓道）の単元計画の作成と指導法の在り方  
○地域の指導者と体育担当教員の連携の在り方

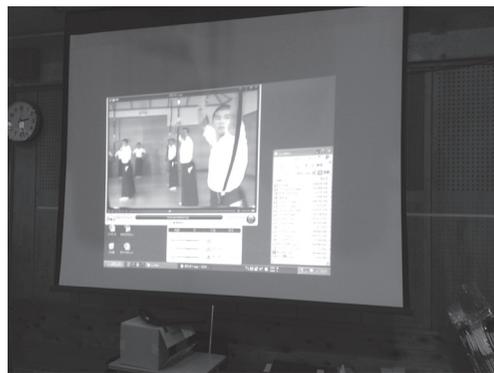
について、次の4点に留意した実践的研究に取り組んだ。  
・弓道の特性及び弓道指導の目的・単元計画作成上の留意点  
・弓道学習における指導上の留意点

・地域の指導者との打合せの内容、方法及び指導上の役割分担

4

武道（柔道）の実践について

- 矢を実際に射る学習では、弓道場で実施する必要があり、単元後半に弓道場での学習を位置付けたことで、練習の成果を發揮でき、生徒の意欲を高める上でも効果的であった。
- ②地域の指導者と体育担当教員の連携の在り方
- 事前に直接打合せを行い、授業展開時には、電話やメール等通常に連絡をとり合って進めていたことで、学習指導をスムーズに展開することができた。
- 地域の指導者による専門的かつ熱心な指導により、弓道の特性を味わうことができ、「今後も機会があればやってみたい」など弓道に好意を示す生徒がほとんどであった。
- 毎時間、複数（3〜4人）の地域の指導者に指導いただいたことで、生徒一人一人に目が届き、安全面に十分に対応した学習活動ができた。
- イ 今後の課題
- 弓道を複数年にわたって学習する際の単元計画の立案が必要である。
- 弓道を指導する期間に地域の指導者の方々の指導体制（指導者の人材確保）を確立するためにも、保健体育科の年間指導計画を立案する段階で、実施時期や指導時数について、学校と指導者との間で十分な打合せを行う必要がある。
- 専門性を高めるための教員に対する具体的かつ計画的な研修の必要がある。



視聴覚教材を使い、動画で説明



学校の多目的教室での基本習得



地域指導者の演武を見学（弓道場）



学習のまとめとして、弓道場での納射



地域指導者からの評価（弓道場）



本時もこんなに多くの矢が！（弓道場）

5

武道指導の実際（柔道）

(1)単元目標

- 伝統的な行動の仕方を守り、「精力善用」「自他共栄」の精神を尊重し、安全に十分留意しながら取り組もうとしている。
- 自己の能力に適した課題を設定し、足技シートなどを使って、
- 柔道の特性や伝統的な行動、技

- 柔道については、道場の環境が整っていた学校では、男子の体育の授業で年間計画に位置づけて取り組むとともに、女子に対しても平成21年度より柔道の授業を行っている。
- そこで、中学校体育科教員の武道に対する指導力向上、更に武道専門ではない教員の指導力の育成、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業の具体化を図るために、次の3点に留意した実践的研究に取り組んだ。
- 専門性が重要となる武道（柔道）の学習において、教師の指導のみならず、ノートや資料を常時活用した学習指導上の実施
- アクティブ・ラーニングの視点から、生徒自らが思考や判断を繰り返しながら、投げ技や固め技等の技能習得を行う活動の設定
- 技能向上のために、仲間と協力しながら主体的に稽古に取り組む活動の設定

- 校で、⑤⑦は弓道場で実施
- ①弓道の歴史について、弓道の説明、事故防止について「1時間」
- ②ゴム弓による射法八節の練習「2時間」
- ③ゴム弓・弓の素引きによる射法八節の練習「2時間」
- ④ゴム弓・弓の素引きによる射法八節の練習、矢番え「2時間」
- ⑤素引き、矢番え、巻藁練習「2時間」
- ⑥巻藁練習、的前練習「2時間」
- ⑦的前練習、納射会「2時間」
- (3)明らかにった成果と課題
- ア 成果
- ①学習指導要領の内容に即した単元計画の作成
- より効果的に学習成果をあげるために、2単位時間続きで行った結果、技能の習得に集中して取り組むことができた。また、授業前後の移動の時間、準備、後片付け等の時間も縮減できた。

ア 成果

③明らかにになった成果と課題

○学習ノートを毎時間記入させることで、自己の高まりに気づくとともに、仲間に対して具体的

④約束練習（取りと受け・班による判定・受け身テスト、固め技の判定）及びかかり練習（1分間の攻防・判定練習・班での練習）〔4時間〕

⑤試合（固め技・立ち技・団体戦）〔2時間〕

○投げ技の指導では、得意技を中心に稽古をさせたことで、積極的に技の習得に取り組むことが

○十分を受け身ができるようになってから、得意技に絞って稽古をする活動を仕組んだことで、投げの稽古に取り組んでいる生徒も多く観られた。

○投げ込みを行う場面では、足技シートと安全マットを使用することで、正しい取の体さばきが分かるとともに、受け身の痛みに対する恐怖心が払拭され、積極的に稽古に取り組んでいた。

イ 今後の課題

○得意技を中心として稽古を行ったので、他の投げ技が未学習に

○まとめの時間では、立ち技の判定で勝敗を競う簡易ゲームを学級対抗戦形式で実施したことで、身につけた技を使って試合に取り組む、大いに盛り上がった。

○投げ技の習得をさせるときは、1時間の授業時間で行うと、慣れた頃には2時間続きの授業を計画的に取り入れた方が、より稽古や試合が効果的に実施できると考える。

○また、生徒一人ひとりが、活用と連携により、充実した授業になる。また、生徒一人ひとりが、思考力、判断力、表現力等を駆使し、互いに協力するなど、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業が大切である。さらに、指導する教員と生徒が安全面に注意しながら取り組むことも重要である。このような授業を行うことによって、全国の中学校でも充実した武道指導ができるようになる。本稿がその一助になれば幸いである。

## 6 おわりに

能のポイントについて理解し、安全マットなど安全面に留意して学習することができる。

### (2) 具体的な指導内容

①歴史や特性、礼法について〔2時間〕

②基本動作（体ほぐし・体裁き）、受け身（後ろ・横・前回り）〔2時間〕

③固め技（袈裟固め・横四方・縦四方）、投げ技（膝車・大外刈り・体落とし）〔2時間〕

④約束練習（取りと受け・班による判定・受け身テスト、固め技の判定）及びかかり練習（1分間の攻防・判定練習・班での練習）〔4時間〕

⑤試合（固め技・立ち技・団体戦）〔2時間〕



学習ノートに記入する生徒の様子



黙想をしている生徒の様子



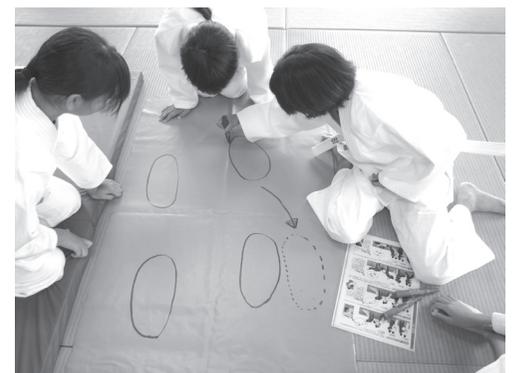
安全マットに投げこむ様子



もどき技で稽古する取と受の様子



足技シートを利用し、投げる様子



足技シートを作成する様子



「一本」ミニゲームを競い合う様子



簡易ゲーム「固め技」の様子